

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.18 2007年10月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

業界 news-国内

クレオの Web 会議システムバージョン 5.6 をリリース。新たなブランド名称で販売を強化

株式会社クレオ(東京都港区)は、インターネット会議システム「FACE Conference 5 シリーズ」の新バージョン Ver. 5.6 を開発し、9月より販売しているが、今回のバージョンから新たに「ZeeM インターネット会議システム」のブランド名称にて販売及びサービスデスクの強化を図る。

今回のバージョンから、サービスデスクを Web から利用できるようにした(9月中旬以降)。Web によるサポートサービスは有料契約が必要だが、よりシームレスなサポートが提供できると同社では考えている。

また、「かんたんエディション英語版」の提供を開始する。これまで国内のみ利用可能だった「かんたんエディション版」が海外でも利用可能になったということになる。

その他では、会議開催、ファイル送信、資料共有やホワイトボード関連の機能の向上などを行った。

FACE Conference は、2002年8月より発売された同社の Web 会議システム。これまで関連シリーズの製品を開発。FACE Conference 5 シリーズでは、「ORIGINAL 版」と「かんたんエディション版」の2種類を販売している。同システムは、260社以上の企業で利用されている。グループウェアに組み込んでポータルサイトから会議が可能で、講演(セミナー)形式で最大118拠点への配信なども可能。

同社ウェブサイト(開発中の新サービスを公開する実験サイトを運営)では、現在開発中のバージョン(開発コードネーム:FACE Conference Future)を無料で試用できる。

日本コムシス、IP 電話システムと連動した Web 会議システム販売開始

日本コムシス株式会社(東京都品川区)は、パソコン Web

ブラウザ画面に資料を共有しながら多拠点間で会議が行えるシステム「1000人ミーティング」の販売を7月に開始した。

「1000人ミーティング」は、日本コムシスが提供する IP 電話システム「comsip」をプラットフォームとした会議システムアプリケーション。基本的に Comsip 環境で動作する。

Comsip は、SIP をベースにしており、IP電話、ソフトフォン、モバイルセントレックス、テレビ会議機能などを提供する。各種設定などは Web ブラウザから簡単に行え、通信ログや課金ログなどユーザ自身でカスタマイズできるような構成になっている。小規模であれば SIP サーバー1台から構築でき、規模が大きくなれば複数台分散構成なども可能。二重化、分散システムなどで高信頼性を実現しているという。

また、同社では「1000人ミーティング」の発売と同月の7月にプレゼンス(在籍状況)がわかる顔付き電話帳「ビジュアル・コミュニケーション・ガイド(VCG)」も発売している。VCGも comsip と連動する。

導入 news-国内

長谷工コーポレーション、Web 会議システムを全現場へ導入

株式会社長谷工コーポレーション(東京都港区)は、社内イントラネットを活用し、本社と現場作業所及び各現場作業所間を結ぶ Web 会議システムを導入したと8月3日の同社プレスリリースにて発表。

同社では、施工量が増大する中、施工品質管理を最優先に考え社内体制の強化を図ってきた。しかし、その一方で部内会議や他部門との調整会議も多く、メールや FAX でのやりとりではお互いの意思の疎通がうまく図れないため、本社に集合して会議を行っていたが、移動に時

間がとられてしまうという課題を抱えていた。

Web 会議システムを導入することで、現場に居ながらにして、意思疎通の図れた会議を行うことが可能になるとともに、現場に密着した施工管理体制を構築し、更なる品質向上を目指したいと考えている。

プレスリリース発表時点での情報によると、同社ではそれまで Web 会議システムの検証を行い、試行的に一部の現場作業所に導入してきた。性能面や使い勝手、高価などについて検証を終え、8月中に首都圏の全現場への導入、その後は、関西圏への順次導入、営業、技術研究所などへも用途を広げていく予定。

長谷工コーポレーション <http://www.haseko.co.jp/>

業界 news-海外

AT&T、Web 会議システム Interwise 社を 1 億 2100 万 USD で買収

米 AT&T が、Web 会議システムの Interwise 社を買収したと発表。買収は直接 AT&T 本体ではなく、AT&T の関連会社を通しての買収となる。金額は、1 億 2100 万 USD(約 141 億円)。買収にかかわる法的等の手続きは、2007 年第四四半期(10 月-12 月期)に終了する見込。

今回の目的は、AT&T の MPLS ベースのグローバル IP ネットワークサービス上で提供される、企業向けコミュニケーション・コラボレーションサービスとして Interwise 社の Web 会議システムが提供されることになる。Interwise 社の Web 会議システムは、「Interwise Connect(インターワイズ・コネクト)と呼ばれる。

買収後の Interwise 社は、マネージメント、北米と国際オペレーション、イスラエルにある R&D の現体制が基本的にそのまま AT&T のグローバル・ビジネス・サービス部門に入ることになる。

米 LifeSize 社、LifeSize Room と LifeSize Team 用ソフトウェア バージョン 3.0 と外部 HD カメラ接続アダプタを発表



HDテレビ会議システム専門のテレビ会議メーカー米 LifeSize Communications 社が、同社が提供するHD対応のテレビ会議システム「LifeSize Room(ライフサイズ・ルーム)」と、「LifeSize Team(ライフサイズ・チーム)」向けの新しいソフトウェア バージョン 3.0 を発表した。

同社からのプレスリリースによると、新しいバージョンでは、主に以下の機能追加や性能の向上が行われた。(1)音声切り替え(Voice activate)による多地点接続通信時は最大6拠点までの接続が可能。ただし、CP(多画面分割)の場合は、最大4拠点までサポート。加えて、データ会議も可能。音声切り替えは、多地点会議時に発言者の声に合わせてその発言者の映像に自動で切り替わるというもの。多画面分割は、ひとつの画面で複数の多地点会議参加者が表示されるものを言う。(2)カメラ部の改善。オートフォーカス、自動露出、色調整などでの性能向上を行った。室内の明るさレベルに柔軟に対応するためのもの。

また、今回のリリースに合わせて、同社からは、「LifeSize SDI Adapter(ライフサイズ SDI アダプタ)」も発表。サードパーティ製のHD対応カメラを LifeSize Room 端末用の外部カメラとしても利用できるようにするためのもの。

LifeSize 社取締役会メンバーに、元米 Novell 社長 Marengi 氏就任

LifeSize Communications 社の発表によると、同社に投資しているベンチャーキャピタリストの1社である Austin Ventures 社 ベンチャーパートナー Joe Marengi 氏が LifeSize 社の取締役会役員に就任した。

Joe Marengi 氏は、Austin Ventures 社の前は、Novell 社の社長兼 COO(最高執行責任者)や、その後 Dell 社の南北アメリカ市場を統括する責任者(上級副社長兼ジェネラルマネージャ)などを経験している。

米 LayeredMedia 社、Vidyo へ社名変更。1200 万 USD 増資実施、マーケティング及びセールス関係でマネージメントを強化

米ベンチャー企業 Layered Media 社は、Vidyo と社名を変更。さらに、Rho Ventures 社、Sevin Rosen Funds 社、Star Ventures 社などから総額 1200 万 USD(約 14 億円)の増資を実施したと発表。

今回の増資にともなって、同社のマネージメントの強化も行った。マーケティングやセールスのマネージメントの責任者として、テレビ会議システムメーカーなどから同社へ入社。マーケティング、ワールドワイドセールス、EMEA(欧州、中東、アフリカ)、製品開発などの責任者に就任する。

ベンチャー企業への増資は、起業、開発、製品化などでシリーズ A、B、C など段階があるが、今回の増資は、シリーズ B にあたり、その資金を元に、製品化及び販売チャネルの開拓を積極的に行っていくことになる。

Vidyo 社は、ホーム向けからビジネス向けのテレビ電話からテレビ会議システム向けのソリューションとして H.264 スケーラブル・ビデオ・コーディング(SVC)技術を開発、公衆インターネット上でも品質の高い HD テレビ会議ソリューションを提供したいと考える。ユーザ直接というよりは、映像コミュニケーションシステム開発メーカー向けソリューションとの位置づけといえる。

SVC は、パケットエラー補正技術の一種と言える。IP ネット

ワーク上でパケットロスが頻繁に発生すると、映像の乱れなどが発生する。現在テレビ会議端末では、QoS 機能としてこのパケットロスに対してエラー補正技術を実装しているが、Vidyo 社の SVC 技術は、パケットエラーが発生しやすい限られたネットワーク環境においても、従来のテレビ会議端末より強化された補正を行うことが可能という。同社ウェブサイトには、パケットロスと映像の乱れの間関係を説明したサンプルデモがある。それによると、ネットワーク上にたとえば、20%のパケットエラー発生率、遅延が 50ms、500kbps の環境下でも映像の乱れない映像が可能という。

米 HP、ユニファイド・コミュニケーションソリューションを提供開始

米 HP(ヒューレットパカード)の 10 月 9 日のプレスリリースによると、ユニファイド・コミュニケーション向けのインテグレーションサービスを提供すると発表。

同社のユニファイド・コミュニケーションサービスは、電話、FAX、email、ボイスメール、テレビ会議、Web会議、電話会議、ワイヤレス/モバイル、などの各種コミュニケーションシステムを統合して顧客に提供。ユーザがどこにいてもその都度最適な方法で相手にコミュニケーションが行え、個人やグループの仕事のやり方や進め方を効率化させると考えている。

同社によると、ユニファイド・コミュニケーション導入に対する企業ニーズの高まりとともに、より簡単に導入し運用できるユニファイド・コミュニケーションが強く要望されているという。今回の HP の対応はこのニーズに対応するためのもの。HP のインテグレーション力とユニファイド・コミュニケーション提供企業とのパートナーシップにより HP の今回のサービスが実現するという。

HP のユニファイド・コミュニケーションサービスでは、同社の提供する既存のシステム製品群(パソコン、サーバー、メッセージング、Halo テレプレゼンスなど)とともに、シスコシステムズ、マイクロソフト、アパリア、エリクソン、ノーテル

などから提供されているユニファイド・コミュニケーションをインテグレーションして顧客企業へ提供することになる。

また、IPへの移行も含めた、ユニファイド・コミュニケーションの導入に向けての事前評価、導入プランと方法の決定、システム的设计から、ROI(費用対効果)の最大化のための支援などまでを含む。

HPは、シスコシステムズの「Cisco Global Gold Partner」、マイクロソフトの「Worldwide Prime Integrator」、ノーテルの「Nortel Global Solutions Partner」など各社から認証を受けている。

米 Phoenix Audio Technologies、USB 対応の 会議室向けスピーカーマイク装置を発表



Quattro

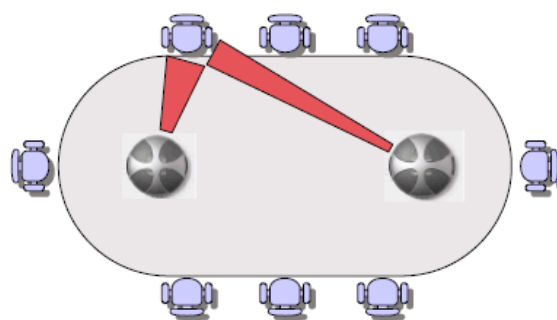
Phoenix Audio Technologies 社は、USB 対応のスピーカーマイク「Quattro(クワトロ)」を発表した。

Quattro は、スピーカーとマイクを本体内に内蔵。パソコンのUSBポートに接続。専用のソフトウェアを必要とせず、USBポートに接続するだけですぐに使用できる。Windows Vista、MacOS、Linux に対応。3.5mm ステレオ出力ジャック内蔵。44khz までの音声帯域に対応。

7 時間連続通話が可能なバッテリーなどのモジュールもオプションで対応している。Quattro 底面にモジュール差し替えようの蓋がある。

スピーカーとマイクは、それぞれ4個内蔵し、エコーキャンセラー、ノイズ圧縮などに対応している。ディジーチェーン(数珠繋ぎ)することで、複数の Quattro を接続して使用することも可能。

複数の Quattro が接続された場合、お互いのマイク機能が連動する。たとえば、会議卓に2台 Quattro が設置されたとする。その場合 Quattro は、マスター(主装置)とスレーブ(従装置)の関係で機能する。それぞれの Quattro に内蔵しているマイクは、会議卓上での音源(人の話す声)の位置を把握し、マスターかスレーブのどちらがその音源に近いかをマスターが判断する。それに応じて、音源に近い装置が集音するという動作を行う。音源は常に動的であるため、マスターとスレーブがそれぞれ音源の位置に応じて切り替わり集音することで効率的な集音を行う。



2 台の Quattro は連動して最適な音声集音を行う

「当社が提供する Quattro は、卓越した機能を持ち、カンファレンスフォン(会議用の通信端末)市場の常識を覆し、従来の会議室環境を一変する力を持った製品だ。Quattro は、ひとつに、ディジーチェーンで何台もつなげることができるため、さまざまな会議室環境に柔軟に対応できる。今後は、Bluetooth(ブルートゥース)などにも対応する考えがある。」(同社社長兼CEO Joseph Marash 氏)

Phoenix Audio Technologies 社は、2004 年に設立された米国企業。ニューヨーク州に本社を持つ。マイク、スピーカー、ソフトウェア、PCIカードなどの開発を通して、VoIP、Web会議、テレビ会議、遠隔教育システム向けの音声ソリューションを提供している。

「当社の技術は市場をリードしているため、我々の技術を組み合わせることでカンファレンスフォン市場はさらなる成長を期待できると思っている。当社には、Duet というパーソナル向けのスピーカーマイクを提供しているが、今回の Quattro が示すものは、当社の技術力の高さだ。製品

については、先進的でイノベーティブな技術を採用しながらも、ユーザが手軽に使えることが大切だと考えている。そのためユーザ企業において自信をもって当社製品を採用していただいている。当社では、日本における Quattro 製品の販売パートナーを探している。」(同社社長兼CEO Joseph Marash 氏)



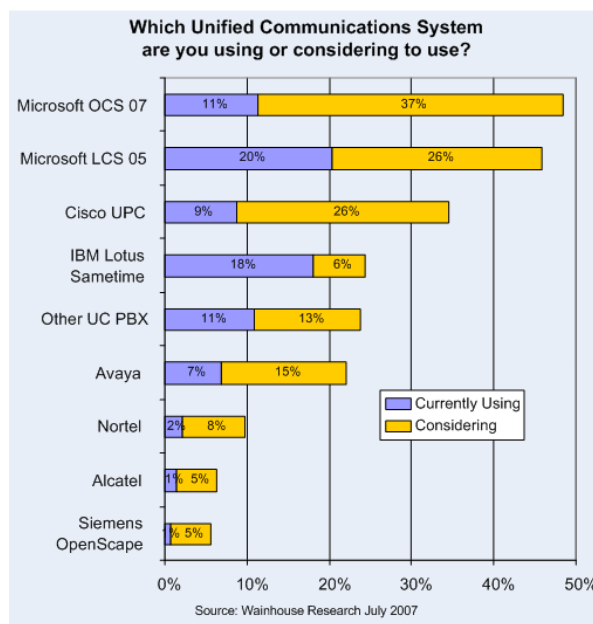
Duet(デュエット) - USB 対応パーソナル用エコーキャンセラー内蔵スピーカーマイク

市場動向

米 Wainhouse 社、企業ユーザのユニファイド・コミュニケーションに関する利用統計を発表

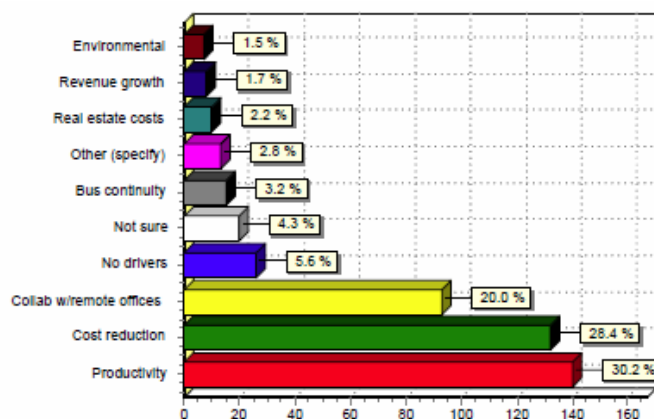
会議システム専門の調査コンサルティングを行う米 Wainhouse Research 社(ウェインハウス・リサーチ)が、会議システム及びコラボレーションシステムのユーザにおける利用や製品選択のトレンドなどを調査した“Rich Media Metrics 2007”レポートの発行を発表。調査に協力した企業は、160社。

その中で、最近話題になっているユニファイド・コミュニケーションの企業における利用状況についてまとめた項目がある。どのメーカーのユニファイド・コミュニケーションを導入しているのかという質問がある。その質問に対して調査を受けた企業の48%は既にマイクロソフト製のシステムを導入あるいは導入を検討していると答え、それに対して、シスコシステムズ製のシステムについては、35%、そして IBM 製のシステムについては、24%という結果になった。



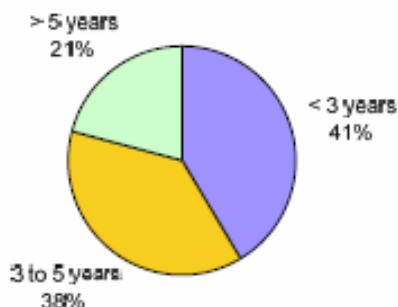
Wainhouse Research 社調査結果

テレビ会議システムの導入目的についても調査を行った。その結果としては、生産性の向上(30.2%)、経費削減(28.4%)、リモートオフィスとのコラボレーション(20%)が多く、その他では、事業継続(BC)(3.2%)などとなった。



Sample Result: Unified Communications Drivers

また、導入からの年数について以下(次のページ)のグラフの結果となった。3年以内が41%、3年から5年が38%、5年以上が21%。



Sample Result: Age of installed videoconferencing systems

レポートの詳細及び購入方法等は、

<http://www.wainhouse.com/reports/index.html#rmm>



Wainhouse Research, LLC

<http://www.wainhouse.com>

セミナー・展示会情報

ビジュアル・コミュニケーション 2007

日時:10月24日-26日 10:00-17:30

場所:東京ビッグサイト(東京・有明)

主催:日経BP社

*テレビ会議、Web 会議システム専門の展示会&セミナー。

他に、IP コミュニケーション & モバイル 2007、SecuritySolution 2007、eドキュメント JAPAN 2007、Biz Innovation 2007 も同時開催。

詳細:<http://itpro.nikkeibp.co.jp/ev/vc07/index.html>

【ビジュアル・コミュニケーション 2007 出展企業】

アジア・ネットコム・ジャパン

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン

エイネット

NEC エンジニアリング

NTT アイティ

キャノンソフト情報システム

クレオ

ジャパンメディアシステム

情報工房

住友商事九州
住友商事マシネックス
ソニーマーケティング
デジタルテクノロジー
東通産業
日本タンバーク
日立ソフトウェアエンジニアリング
ブイキューブ
プリンストンテクノロジー
ポリコムジャパン
マイクロソフト
松田通商
三菱電機システムサービス
メディアプラス
ヤマハ

日本遠隔医療学会学術総会 JTTA2007 in Okayama

少子高齢化時代に、いのちと健康を護る、遠隔医療

日時:10月19日-20日

会場:岡山コンベンションセンター

主催:日本遠隔医療学会

詳細:

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/jtta2007/index.htm>

PUG Annual Conference 2007

日時:10月14日-17日

会場: Disneyland Resort Hotel Anaheim(アメリカ、アナハイム)

主催:Polycom User Group

詳細:<http://www.pug.com/events.asp#2007>

■WR CSP Summit 2007

Driving Value Through Innovation - the Face of the New Collaboration Service Provider

日時:10月29日

場所:Hilton Boston Logan(アメリカ マサチューセッツ州ボストン)

主催:Wainhouse Research, LLC

詳細:<http://www.wainhouse.com/cspsummit/>

編集後記

今号もお読みいただきまして有り難うございます。

今後とも宜しく願い致します。

橋本啓介